

平成30年度事業について

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

法人の概況

- 1：名称等 公益社団法人日本植物園協会
Japan Association of Botanical Gardens（略称 JABG）
- 2：設立等 昭和41年4月11日（法人成立の年月日）
平成25年4月1日付けで公益社団法人に移行
- 3：目的等 全国的な植物園ネットワークを通じて、植物園及び植物に関する文化の発展と科学技術の振興並びに自然環境の保全に貢献し、人類と自然が共生する豊かで持続的な社会の実現に寄与することを目的とする。
（定款第3条）
- 4：事業内容 定款第3条の目的を達成するため次の事業を行う。（定款第4条）
（1）植物園及び植物に関する調査・研究及び資料収集
（2）植物園及び植物に関する教育並びに普及啓発
（3）植物多様性の保全活動
（4）植物園に関する支援
（5）その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 5：監督機関 内閣府公益認定等委員会
- 6：事務所所在地 〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11 ティーハイムアサカ 201
- 7：公益目的事業
公1 植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究
公2 植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発
- 8：収益事業等 なし

事業の状況

I：植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究（公1）

(1) 調査及び資料収集

1. 海外事情調査

調査先はドイツ。調査期間は平成30年9月20日～27日の8日間。参加者負担金は475千円。主な調査内容は、ドイツ植物園協会大会への公式参加（特別講演、ボン市被爆樹苗植樹式、およびエクスカーション参加）、ボン大学植物園、ケルン市立植物園、ハルレ樹木園、フランクフルト植物園、パルメンガルテン、ヘルマンスホーフ園芸庭園（＝ワインハイム植物園）、ミュンヘン植物園・標本室、プフロンテン湿地自然保護区、およびノイシュバンシュタイン城周辺散策。中田政司隊長（富山県中央植物園）を含む9名が参加した。

2. 植物園概要

正会員のデータ更新調査は実施せず、次年度に延期した。

3. 国際活動

国立科学博物館で行われた“2018 科博国際シンポジウム「東・東南アジアにおける植物多様性保全」”を共催で実施した。国際シンポジウムの関連として、東アジア植物園ネットワーク（EABGN）のビジネスミーティングを、11月11日（日）、国立科学博物館日本館中会議室で開催した。東アジア各国から14名の参加があり、日本から5名が参加した。

海外事情調査にてドイツ植物園協会大会行事に参加した。

(2) 生物の多様性保全

1. 種苗交換

正会員21園から寄せられた情報をもとに種苗交換植物リスト（分譲381種を掲載）を作成、リストには植物多様性保全事業における「絶滅危惧植物種の種苗交換」を一緒に掲載し、正会員に斡旋を行った。「絶滅危惧植物の種苗交換」は、種子保存拠点園である環境省新宿御苑がとりまとめとリスト作成（リスト提供園数12園、103種掲載）を行い、リスト小冊子を正会員に2月に配布した。

2. 植物多様性保全拠点園事業

① 絶滅危惧植物保有状況調査

53回広島大会にて経過報告を行った。5年ごとに行う第4回保有状況調査を開始した。

② 絶滅危惧植物保全データベース

データベース分科会を3回開催。データベース入力促進を呼びかけ、環境省連携事業での収集データと連動して登録種数を増やした。登録総数2,224種中、生育特性情報掲載669種。

③絶滅危惧植物の情報取り扱い検討

植物園における希少植物等の情報管理に関する意識と安全性向上のため、種苗交換時に「絶滅危惧植物の情報取り扱いガイドライン」を配布し周知を図った。

④植物多様性保全拠点園ネットワーク活動

- ・種子採集と種子保全拠点園（新宿御苑・沖縄美ら島財団）で絶滅危惧植物の種子保存を行った。
- ・ニューズレター26号（10月）、27号（12月）、28号（3月）を発行した。27号から4→8ページに増やし、植物保全に関連する各園情報・イベント・活動、コラム等を加え、当協会公益目的事業全体の広報物への転換を図っている。
- ・関東拠点園会議を開催：6/14、12/11、3/12（新宿御苑）
- ・西日本拠点園交流会を開催：6/19（広島市佐伯区民文化センター）
- ・中部植物多様性保全拠点園連絡会議を開催：8/1（豊橋総合動植物公園）
- ・絶滅危惧植物の種苗交換：12園から103種の提供があり、斡旋を行った。
- ・東北津波被災地の絶滅危惧植物保全の支援として植物園での希少野生植物の現地調査を行った。

⑤外来植物対策

- ・外来種対策分科会で特にオオキンケイギクの同定問題に関して、メール会議、資料収集、実物・標本調査等により検討を行った。
- ・普及活動として、オオキンケイギクの見分け方を富山県中央植物園の研究発表展・発表会で報告、環境省九州地方環境事務所の依頼によりオオキンケイギク駆除チラシ制作の写真提供と監修を行った。

3. ナショナルコレクション活動の展開

委員会を2回開催、現地審査を2回実施、2件の新規ナショナルコレクション申請があり審査中。昨年度申請のあった1件の審査が完了。植物コレクション保有状況調査アンケートを実施、申請に関する書類・データ整備、WEBページ上に掲載するデータベース作成を開始した。事業の一部は公益財団法人山口育英奨学会の平成30年度自然環境保護活動助成を受けて実施した。

4. ワシントン条約にかかる寄託管理事業

経済産業省との「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）に基づいて任意放棄され、取得した植物に係る保護及び育成の寄託管理契約」に基づき、経済産業省から寄託された植物の保護育成を行った。本事業は平成7年から継続、平成30年度の寄託依頼植物数419株、30年度末の保護育成管理園27園、年度末の総保護数4,138株。

5. 環境省連携事業

- ①マルバテイショウソウ（牧野植物園が実施）とサガリラン（沖縄美ら島財団が実施）の野生復帰事業を行った。
- ②昨年度から引き続き環境省より「希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務」を受託、「環境省連携事業」として実施した。本事業は植物多様性保全委員会内に設置した環境省連携事業分科会が担当し、事業推進にあたった。委託業務は以下の4項目について実施した。①国内希少野生動植物種

等の生息域外保全手法の検討、②国内希少野生動植物種等の生息域外保全の実施、③種子保存に関する検討、④生息域外保全情報管理システムに関する検討。

6. その他、生物の多様性保全に関する活動

■環境省との基本協定書に基づく事業

・環境省連携事業（野生復帰事業・平成30年度希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務）を実施した。

■「国連生物多様性の10年日本委員会」の広報等への協力を行った。

■国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターと小笠原村、当協会の共同事業として、「オガサワラグワ里親計画」を開始。今年度の受け入れは1園（東京都神代植物公園）。

(3) 学術や文化の振興

1. 第53回大会行事

担当：広島市植物公園

会期：平成30年6月19日（火）～21日（木）

会場：広島市佐伯区民文化センター

参加者：62園140名

実施内容

- ・第53回定時総会
- ・協会表彰（4名、1園） ・ナショナルコレクション認定証授与（2件）
- ・分野別会議
- ・委員会活動報告（経済産業省：ワシントン条約及び寄託管理事業に関する報告、植物多様性保全委員会、ナショナルコレクション委員会、教育普及委員会、国際交流推進委員会：インドネシア調査報告）
- ・意見交換会
- ・施設見学（広島市植物公園）参加者95名
- ・研究発表会 日時：平成30年6月20日（水）9:45～12:45
内容：口頭発表8題、ポスター発表13題
- ・公開シンポジウム 「被爆樹木を守り、広める」（会場：広島市植物公園）

2. 植物研究会・技術者講習会

■第1回植物研究会

担当：東京都立神代植物公園

会場：東京都立神代植物公園、植物多様性センター

期日：平成30年7月11日～12日

参加者：1日目33名、2日目22名

内容

1日目 ハナショウブの植付講習、講演会

演題「ハナショウブの品種分類と栽培」 田淵 俊人（玉川大学農学部生物資源学科教授）
2日目 施設見学（本園及び植物多様性センター）

■第2回植物研究会

担当：豊橋総合動植物公園

期日：平成30年8月1日～2日

参加者：38名

テーマ「東海丘陵要素郡の湿地性植物」

講義①「東海丘陵要素群」講義②「葦毛湿原の遷移の評価」 植田 邦彦（金沢大学元教授）

講義③「葦毛湿原の再生方法の紹介」 贅 元洋（豊橋文化財センター）

現地視察「夏の葦毛湿原観察会と外来種駆除」（指導：贅 元洋）

※平成30年度中部植物多様性保全拠点園連絡会議を併催で実施した。

■第1回技術者講習会（開花時期を考慮し、次年度に延期）

担当：金沢大学附属薬用植物園

3. 「日本植物園協会誌 第53号」

日本植物園協会誌第53号（A4判124ページ、480部）を発行した。会員への配布のほか、全国の都道府県立図書館に寄贈した。

4. 分野別活動

■第1回目の分野別会議は、53回大会開催時にそれぞれの分野で実施した。

■第1分野（第54回国立大学植物園長会議・第一分野拡大施設長会議）

担当：東北大学植物園

会場：東北大学植物園八甲田山分園

期日：平成30年10月18日

参加者：5園7名

議題：①各園の近況報告、②技術職員の体制および大規模災害時の対応

視察等：八甲田山分園見学、エクスカージョン（蔦沼周辺森林見学）

■第2分野（第36回国公立植物園運営会議）

担当：富山県中央植物園

期日：平成31年2月28日～3月1日

参加者：38名

テーマ：「ICTを利用した植物園の情報発信」

講演①「富山県美術館のSNS利用」北澤 愛（富山県美術館）

講演②「動画による植物園からの魅力発信」東 義詔（富山県中央植物園）

講演③「Web を用いた植物園コレクションのデータ管理と活用」

倉島 治（東京大学大学院総合文化研究科）

施設見学（富山県中央植物園：蘭まつり大会、栽培温室等）

■第3分野

担当：西武造園株式会社

会場：国営昭和記念公園、国営東京臨海広域防災公園

期日：平成30年10月4日～5日

参加者：8園16名

議題等：1) 各園近況報告、2) イベントの実施状況及び今後の計画等報告、3) 防災に関する取り組み報告、4) 次年度以降の活動予定

視察等：国営昭和記念公園：環境学習プログラム「富良野自然塾」体験と盆栽苑視察。国営東京臨海広域防災公園：「そなエリア」体験と施設見学

■第4分野

期日：平成30年9月15日（土）

場所：安田女子大学（第65回日本生薬学会会場）

参加者：12名

議題等：1) 次年度以降の技術者講習会、2) 薬草ガイドブック改訂、3) その他
施設見学の実施

II：植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発（公2）

(1) 講演会・シンポジウム・展示会

1. シンポジウム、講演会等

①植物園シンポジウム

第15回植物園シンポジウム「ナショナルコレクション—貴重な植物を後世に伝える」

期日：平成30年10月7日

会場：新潟県立植物園研修室

後援：新潟県花き振興協議会、新潟県花木振興協議会

参加者：52名

講演内容：

「植物園でランを知る・守る・伝える」遊川知久（国立科学博物館筑波実験植物園）

「イギリスにおける植物保全 ナショナルプラントコレクション」

長澤亜紀子（安城産業文化公園デンパーク）

「日本植物園協会ナショナルコレクション認定～武田薬品京都薬用植物園命名ツバキ品種群」

古平栄一（北里大学薬学部附属薬用植物園）

「広島市植物公園の変わり葉ゼラニウムコレクション」島田有紀子（広島市植物公園）

「日本を代表する花木産地 新潟の園芸植物 アザレア・古典園芸植物・ボケ」

倉重祐二（新潟県立植物園）

②国際シンポジウム「東・東南アジアにおける植物多様性保全」（共催）

会期：平成 30 年 11 月 9 日～11 日

会場：国立科学博物館 日本館講堂

主催：国立科学博物館

共催：（公社）日本植物園協会、（公財）国際花と緑の博覧会記念協会

協力：（公財）東京都公園協会

後援：朝日新聞社

協賛：（公財）東芝国際交流財団

参加者：学術シンポジウム 110 名、公開シンポジウム 124 名

内容：

11 月 9 日・10 日 学術シンポジウム「Plant Biodiversity in East and Southeast Asia」

東アジア・東南アジアの 13 名の研究者（うち日本人 1 名）による講演。東アジアと東南アジアにおける植物多様性保全の情報共有と問題解決に向けた議論、植物多様性の重要性と必要性の発信を行った。（使用言語：英語、同時通訳あり）

11 月 11 日 公開シンポジウム「日本の植物多様性を考えよう」

植物多様性保全研究分野の第一線で活躍する研究者・植物園職員による植物多様性の現状と問題、植物園における保全・研究・発信、植物多様性の魅力などに関する講演を行った。（同時通訳あり）

※東アジア植物園ネットワーク（EABGN）のビジネスミーティングを併催した。

③第 2 回教育普及ワークショップ

期日：平成 31 年 1 月 28 日～29 日

会場：神代植物公園

参加者：37 名

テーマ：小学校団体向け学習プログラム

講演①「子どもが主体的に学べるプログラムデザインと対応法」

松本朱実（動物教材研究所 pocket 代表）

ワークショップ「学習プログラムのシナリオ制作・評価」

講演②「現代日本の教育の中で小学校で求められていること（植物園のできる環境教育）」

小森伸一（東京学芸大学）

ワークショップ「小学校向けの学習プログラム」

2. 展示

①「新宿御苑みどりフェスタ」(平成30年4月29日)に出展した。展示ブース訪問者310名。

(2) 普及啓発資料の発行

1. ガイドブック、書籍

日本植物園協会第4分野が作成した『薬草ガイドブック』シリーズの頒布を行い、児童生徒、学生、幅広い市民への知識向上や薬用植物を中心とした植物と文化に関する普及啓発を行った。「薬草ガイドブック 薬草園へのいざない」改訂版を新規に制作した。制作は第4分野会員園による。

(3) 普及啓発資料の提供

1. パネル、データ貸出

生物多様性・植物の保全等を目的としたパネル、データの活用促進に努め、2件の利用があった。

(4) キャンペーン

1. 「植物園の日」事業

広報資材(ノボリ)、協会ホームページによる広報活動を行った。教育普及委員会が「植物園の日」キャンペーン用にポスター(A2判2種類)、チラシ(A4、3000部)を作成した。

2. 絶滅危惧植物マーク広報

マーク制定の意義を訴え、マークの活用を促進した。

3. 自然災害被災地復興支援事業

①東日本大震災被災地支援のため「花を届ける夢の折鶴プロジェクト」を東京都夢の島植物館が継続して推進し、5月に折鶴の贈呈式等を行った。

②宮城県岩沼市「玉浦西地区まちづくり」計画への復興支援を行った。

(5) 表彰

1. 表彰

木村賞 1名

神戸 敏成 氏(富山県中央植物園)

平成6年の着任以来、組織培養を用いた絶滅危惧植物の増殖・保全に関する研究や植物の収集・管理、イベント立案・実施などにより植物園運営に大きく貢献し、また、長年日本植物園協会の植物多様性保全委員としての活動を行った。

植物園功労賞 2名

辰尾 良秋 氏(富山大学薬学部附属薬用植物園)

36年にわたり薬用植物園において薬用植物の栽培を行うとともに、学生実習や公開講座事業での指導、また薬用植物供給システム構築および新規薬用植物作出の研究に大きく貢献した。

竹下 博文 氏（大阪市立大学理学部附属植物園）

32年にわたり熱帯・亜熱帯植物の温室栽培、保存に中心的な役割を果たし、植物の展示公開や園内ガイドを行なうなど、入園者サービスの向上や植物園の発展に大きく貢献した。

坂崎奨励賞 1名

林 寛子 氏（新潟県立植物園）

企画展示業務に積極的に取り組み、観賞温室内での大規模展示に主導的な役割を果たし、植物や園芸、緑化に対する普及啓発、花き園芸産業の振興、入園者拡大に貢献した。子供を中心とした教育活動にも取り組み、主導的な立場で活動を行っている。

Aboc・CULTA賞 1名、1園

志内 利明 氏（富山県中央植物園）

20年にわたりトカラ地域の維管束植物フロアの解明、植物目録の編集発行および系統保存と展示で実績をあげ、富山県中央植物園の植物登録データベースの構築と運用に大きく貢献した。

高知県立牧野植物園

高知県植物誌編纂の事業拠点として活動し、県内外の植物愛好家や県民ボランティアの協力のもと2009年に高知県植物誌を出版した。本事業を通じてふるさとの植物の多様性を把握し、園内の植物の正しい和名・学名を普及した。

Ⅲ：目的の達成に必要な関連事業

1. 後援及び協賛等

【共催】3件

①公益社団法人園芸文化協会

江戸の花プロジェクト・園芸文化を守ろうセミナー 「未来につなぐ朝顔文化」 season2

②国立科学博物館

国際シンポジウム「東・東南アジアにおける植物多様性保全」

③越後雪割草街道連絡会

フラワートークショー2019

【協力】1件

①一般社団法人日本公園緑地協会

平成30年度「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会

【後援】9件

①フラワー・ブラボー・コンクール実行委員会

平成30年度フラワー・ブラボー・コンクール（FBC）

②高知県資源植物研究会

武井近三郎氏の牧野植物園建設業績を称える記念碑 建立記念講演会

③富山県中央植物園

講演会「富山の外来生物」

- ④IUCN ラン専門家部会日本支部
第 11 回「みんなで守ろう日本の野性ラン」シンポジウム
- ⑤公益財団法人豊橋みどりの協会
絶滅危惧植物展
- ⑥公益財団法人広島市みどり生きもの協会
特別企画展「バオブブ展」
- ⑦TSO International 株式会社
レジャージャパン 2018
- ⑧クリスマスローズの世界展実行委員会
第 17 回クリスマスローズの世界展
- ⑨公益財団法人 日本補助犬協会
第 6 回 もっと知って補助犬キャンペーン
- ⑩沖縄国際洋蘭博覧会実行委員会
平成 30 年度沖縄国際洋蘭博覧会
- ⑪兵庫県立淡路夢舞台温室「奇跡の星の植物館」
淡路夢舞台ラン展 2019

2. ホームページ活用及び広報活動

- ・各事業等の告知等のため、協会ホームページ更新を行った。

3. 諸会議

1. 第 53 回定時総会

日時 平成 30 年 6 月 19 日

会場 広島市佐伯区民文化センター

議題 第 1 号議案 平成 29 年度決算、第 2 号議案 役員の選任

第 3 号議案 定款の変更、第 4 号議案 名誉会員の推挙

報告 第 1 号報告 平成 29 年度事業報告、第 2 号報告 平成 30 年度事業計画

第 3 号報告 平成 30 年度収支予算、第 4 号報告 社員等の異動状況

2. 役員会・委員会等

【理事会】

第 1 回臨時理事会 平成 30 年 5 月 17 日（書面）

第 2 回臨時理事会 平成 30 年 6 月 11 日（書面）

第 1 回通常理事会 平成 30 年 6 月 19 日 広島市佐伯区民文化センター 音楽室

第 3 回臨時理事会 平成 30 年 6 月 19 日 広島市佐伯区民文化センター スタジオ

第 4 回臨時理事会 平成 30 年 12 月 10 日 事務局

第 2 回通常理事会 平成 31 年 3 月 11 日 事務局

【執行役員会】（代表理事と業務執行理事による会議）

第1回執行役員会 平成30年5月14日 事務局

第2回執行役員会 平成30年8月28日 事務局

第3回執行役員会 平成31年1月24日 事務局

【監査】

- ・平成29年度事業について平成30年4月20日に榎本監事による監査を実施した。

【委員会】

- ・植物多様性保全委員会

第1回委員会（6月20日 広島市佐伯区民文化センター）

- ・絶滅危惧植物保全データベース分科会（新宿御苑）

第1回会議（6月14日） 第2回会議（12月11日） 第3回会議（3月12日）

- ・ナショナルコレクション委員会

第1回委員会（6月19日 広島市佐伯区民文化センター）

第2回委員会（10月6日 新潟県立植物園）

- ・植物園シンポジウム企画委員会

第1回委員会（6月20日 広島市佐伯区民文化センター）

第2回委員会（7月27日 エーザイ本社）

第3回委員会（11月29日 エーザイ本社）

- ・教育普及委員会

第1回委員会（1月29日 神代植物公園）

- ・研究発表委員会

第1回委員会（2月6日 事務局）

4. その他

【関連団体等との連携、提携、協力】

- 1) 2019年に京都市で開催される ICOM 京都大会の組織委員会（委員：岩科会長）に参画し、会議参加、情報交換等の協力を行った。
- 2) 天皇陛下御即位三十年奉祝委員会に参画、岩科会長が設立総会に出席した。
- 3) 国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターと小笠原村、当協会の共同事業「オガサワラグワ里親計画」を開始した。
- 4) 国連総会が定めた3月3日の「世界野生生物の日」に関連して、環境省と経済産業省が行った普及啓発活動に、パネル展示等で協力した。

平成30年度事業報告 附属明細書

平成30年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。